

平成23年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価 総括評価表

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる教育を推進する。
- ③ 社会的な規範を尊重するとともに、人権に対する鋭い感性を磨き、自然との共生を推進する。

2 本年度の学校経営目標

- ① 個性や能力を伸ばし、進路実現が図れる学校づくりを推進する。 [学校力の向上]
- ② コミュニケーション能力を身につけ、人を尊重することのできる人づくりを推進する。 [人間力の向上]
- ③ 体験的活動をとおして、確かな技術を身につけ実践できるものづくり教育を推進する。 [実践力の育成]
- ④ 働くことの意義を学び、主体的に生きる力を身につけるキャリア教育を推進する。 [キャリア力の育成]

3 重点目標と計画

自 己 評 価					学校関係者評価		
中期目標	重点目標	目標達成のための計画	評価指標・活動計画	評価指標の達成度・活動計画の実施状況	評価	学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
学校力の向上	① 基礎学力の定着を図る。	出張等による授業振り替えや学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。	年間の授業実施時数を1単位につき35時間の85%以上確保することを目標にする。	年間の授業時数確保が85%程度確保することができた。	B	◎授業の確保に努め、基礎学力の向上が図られていると思う。さらにスキルアップしてほしい。	学校行事の精選や実施日の検討により授業時数の確保に努める。
		各教科の「学習指導の記録」の作成・中間評価・最終評価を実施することにより、わかりやすい授業へ改善を促す。	生徒アンケートにより、「授業がわかりやすい」とする生徒の割合を45%以上とする。	授業評価の日程を3月から12月に変更し、授業改善に役立てられるようにした。アンケート結果は、1年36%、2年53%、3年69%、全体49%が「授業がわかりやすい」と答えた。	B	◎わかりやすい授業の生徒評価も向上している。視聴覚機器等を使った授業展開にも取り組んでほしい。	授業評価の方法を本年度新しくした。次年度は周知を徹底して効果的に実施する。
		家庭学習の大切さをくり返し伝え、かつ、学力向上カードの実践や保護者懇談会などにより家庭学習時間の増加を図る。	生徒アンケートにより、家庭学習をしている生徒を40%以上とする。	1、2学期末に学力向上カードを配布。8月の登校日や始業式、終業式等で家庭学習をしっかりとるように呼びかけた。アンケート結果は、1年37%、2年46%、3年60%、全体45%が家庭学習をしていると答えた。	A	◎家庭学習の奨励は厳しいところはあるが、成果は出ている工夫努力を続けてほしい。	本年度同様、家庭学習の大切さをくり返し伝え、内発的な学習意欲の向上をはかる。また、学力向上カードの取り組みを継続して行う。
		生徒の実態に応じた習熟度別学習を展開する。	生徒アンケートの満足度を65%以上とする。	アンケート結果は、数学1年51%、2年85%、3年60%、全体64%、英語1年47%、2年64%、3年77%、全体60%が習熟度学習に満足していた。	C	◎習熟度学習の成果は向上していると感じる。年ごとに評価指標をレベルアップしてほしい。	1年生での満足度が低いのは類コース制により学力差が大きく、習熟度別クラスが2クラスでは対応しきれないためと思われる。しかし、60%以上の生徒が

					習熟度別学習に満足しているので次年度も実施していく。	
	学力定着の方法の一つとして、自ら学び考える力の育成のためマインドマップノート法を習得させる。	マインドマップノート法が、学力向上に役立つとする生徒の評価により行う。	役に立つと思う生徒の割合 1年 77% 2年 60% 3年 62%	B	◎MMは特色ある取り組みであるが2年生の満足度が少ない。3年生は進路実現の手段としての活用がある。2年生にも関心の持てる課題にすれば満足度も高くなるのではないか。1年生への啓発・普及に努めてほしい。	来年度1年生にはオリエンテーションの時期に集中して実施する。
	教職員の共通理解を図り、マインドマップ年間学習計画を立案し実施する。	マインドマップを用いた教材研究、授業を各教科で1回以上実施する。	公開授業という形では実施できなかったが、研究授業やHR等でMMが利用された。各教科において実施した。	B		ものづくりをテーマにした公開授業を実施する。
	ホームルール活動、長期休業中の宿題に学習意欲の向上を促すマインドマップを作成させる。	ホームルーム活動1回、宿題1回以上実施する。	統一HRという形では実施できなかったが、夏休みの宿題や各学年においてインターンシップや文化祭等をテーマに実施された。	B		ものづくりをテーマとした統一HR活動を実施する。
	学習意欲向上のための生徒講演会を開催する。	年間2回以上開催する。	夢・未来講演会と発表会を実施し、約7割の生徒が役に立つと答えた	B		夢・未来育成事業の予算がなくなるので外部講師を招聘は他の事業において実施する。夢・未来発表会は継続して行う。
②進路実現を支援する。	コース選択について、保護者・生徒が家庭でもよく話しあえるよう、保護者説明会の内容を充実させる。	コース選択に対し、満足している生徒を80%以上にする。	PTA総会において説明(5月15日)。またコース選定保護者説明会を6月26、27日の2回実施した。アンケート結果は74%の1年生が満足していると答えた。	C	◎2年生から専門コースに分かれる現制度では、専門分野の学習が遅れることから専門性が高くないのではないかと。来年度からは1年生から科になるということで専門性を高めてほしい。	次年度は小学科となるため説明会は実施しない。
	3年担任、コース長、進路指導課員が、最新の進路に関する情報を収集し、生徒に適切な情報の提供に努める。	・生徒の希望する企業等を訪問し、適切な資料や情報を収集する。	県外28社、県内数十社に出向き求人計画、入社試験概要などの聞き取り調査により、生徒に有意義な資料を提供できた。	B		県内企業の訪問先についての検討を年度当初に入念に行い、適切な企業訪問を実施する。
	生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。	・進路説明会や進路講演会実施による進路選択支援。 ・三者面談・応募前職場見学・進路先資料の公開を通しての進路選択支援	・受験企業42社中29社が職場見学が可能であり、その内およそ8割の23社の応募前見学に参加した。 ・一次募集の内定率が87%(71/82)であり、昨年、一昨年に比べ飛躍的に増加した。	A	◎卒業生の就職しての状況等多くの情報を生徒に知らせたい。卒業生の講演等機会を多く開催してほしい。	・応募前企業見学の時期を企業に協力を頂き、早い時期に実施させたい。 ・今年の不採用の理由のほとんどが学力不足であった。今ま

			・採用実績を考慮に入れた進路選択による内定率の向上。 ・生徒アンケートによる評価を行う。			で以上に基礎学力向上に有効な手段を考えたい ・進路説明会への保護者の参加率を向上させる方法の検討	
開かれた学校づくり	①積極的な広報活動を推進する。	本校の教育内容や教育活動について、中学校に対し説明し広報に努める。	訪問校を前年度より増やす。	中学校教員説明会を6月13日に実施した(参加校24校)。また、7月～11月に24校の中学校を訪問し学校説明をした。	B	◎ホームページの有効活用を進めてほしい。	学校案内の印刷数が予想より少なく不足した。次年度はより効果的な案内を作成し、かつ、さまざまな機会を捉えて広報していきたい。
		ホームページの内容を充実させるとともに、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。	最低毎月5回以上ホームページを更新する。	3月時点で更新165回。月平均約14回更新されている。	A	◎多くの人がホームページを見ていると思う。広報の良い手段である。	各担当者がホームページを更新できるようサポートする。
		学力向上関係のトピックスを広報する。	年1回以上ホームページに掲載する。	ホームページに掲載できなかった。	C		積極的に広報する。
②学校開放を推進する。	中学生とその保護者を対象とする体験入学の内容を充実させる。	参加者を前年度より増やす。	参加者を前年度より増やす。	昨年度：24校112名 本年度：23校110名 (生徒+保護者)	B	◎来校者を増やす手立てを考えていただきたい。	企画課と連携しホームページに掲載できるよう努力する。
		”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。	参加者を前年度より増やす。	11月4～6日に学校説明会と施設見学会を実施した。本年度は中学生3名、保護者・地域住民47名の参加であった(昨年度はそれぞれ5名、37名)。	A	◎小学生バレーボール教室では、保護者の評判大変良い。保護者間で口コミで良い評判を伝えてもらうような取り組みをさらに続けてほしい。	阿工祭の時に実施しているが本年度は中学校への広報が遅れた。次年度は早めに広報し参加中学生数を増やしたい。
		保護者が学校に気軽に来校できるよう、PTA活動を活性化させる。	PTA総会、研修会などへの保護者の参加人数を昨年度以上に増やす。	PTA総会を始め、人権問題研修会、家庭教育部主催の講習会などの開催日時を工夫し、できるだけ保護者が参加しやすい曜日や時間帯に設定することにより、参加者数の増加を図った。	B		魅力的な講習会が開催できるよう、内容を吟味する。
⑤校内教職員研修の充実を図る。	各課と連携し校内研修の充実を図ったり、MM法を取り入れた授業力向上のための校内研修を実施する。	昨年度以上の研修を実施する	校内研修としては、MMコーチング研修、人権研修、コンプライアンス研修などを実施した。また、初任者研修や3年次研修に係る研究授業には多くの職員が授業参観した。	A	◎生徒の興味関心を引くような授業を展開するための教材研究・授業の手法を考えてほしい。	今年度以上の校内研修の活性化を図る。	
		教員のスキルアップを図	職員研修年3回以上実	夢・未来育成事業の予算でコーチングセ			教職員のスキルアップ

	るため、学力向上に関する職員研修を実施する。	施する。	ミナーを1回実施したのみであった。	C		プのために必要な研修を計画する。	
	教員のマインドマップ活用能力向上を図るた。	公開授業を全クラスで実施する。 教材研究会を組織し、教材の研究を年3回以上実施する。	公開授業という形では実施できなかったが、研究授業やHR等でMMが利用された。	B		ものづくりをテーマにした公開授業を実施する。	
⑥ 情報セキュリティ対策を推進する。	情報セキュリティポリシーの遵守	情報セキュリティポリシーについて、年1回以上職員研修を行いセキュリティに対する意識の向上を図る。	1学期に学校情報セキュリティポリシー実施手順、PCの使用についての研修を行った。また、職朝でコンピュータセキュリティについて啓発を行っている。	B	◎情報セキュリティは、工業高校の特性が生かせており今後も対策を推進して欲しい。	来年度も職朝を積極的に活用し、職員へのセキュリティについて啓発を行っていききたい。	
⑦ 事業の実施による活性化を図る。	知的財産権に関する創造力・実践力開発事業を実施する	事業の実施により、知的財産制度に関する理解を深め、知的財産権の取得に向けて必要となる活動や体験を通じて、創造力と実践力が身についたか、アンケート結果により60%程度の満足度を得る	1学年では、工業数理で知的財産標準テキストを使い知財権基礎の学習をした。3学年では、各コースの課題研究でアイデアと工夫に満ちた作品作りを行った。また、全学年では夏休みの課題にアイデアやひらめきを募集し、校内アイデアコンクールを実施した。その結果、知的財産権の大切さと、ものづくりにおいて創意工夫する習慣を身につけさせた。	A	◎知的財産教育はこれからの時代重要である。 ◎個々の創造力・企画力の向上に努めてほしい。	知的財産権は、ものづくりを行う工業高校生にとっては、欠かすことの出来ない知識であり、次年度も計画的かつ継続的に取り組む必要がある。	
⑧ 部活動の活性化	全員加入を目標とする活気ある部活動を実施する	昨年度実績(%)以上の入部率が向上するよう指導する。	1年生の入部率が大きく改善できた。	A	◎部活動の活性化は、学校全体の活性化につながる。より多くの生徒が部活動で活躍できるようお願いしたい。	部活動紹介を積極的に行えるように現部員に指導する。	
	自主活動の充実と活性化をはかる。 ・あこう研究会の活動を充実させる。	週2回の校内活動を70%程度を目標とする。	年度当初は部員3名であったが、自主的な入部や勧誘で部員が増え、活動しやすい環境が整った。ほぼ毎週、月・木の2回活動することができた。	B		生徒自身が自主的に活動できるよう助言し、さらに活動が活発になるよう指導する。	
		「南部ブロック生徒部会」、「中・高生による人権交流集会」等に70%程度参加させる。	南部ブロックの活動は県外研修を含め6/8回。県交流集会には、全員の部員が参加した。部員9名	B		昨年同様に交流集会等に積極的に参加し70%以上の参加を目標にする。	
人間力の向上	① 基本的な生活習慣の確立を図る。	規則正しい生活に心掛けるよう指導し遅刻をなくす。遅刻時の声かけ、月遅刻6回以上生徒の特別指導(生徒課長・学年主任・コース長)	1日の学校全体の遅刻数を7回以内にする。(平均)	1ヶ月に5回遅刻した生徒には係より遅刻防止の作文を書かせ6回以上遅刻した生徒には生徒指導主事より話をしたり作業をさすなど指導をしたが歯止めになって頑張った生徒も見られるが改善されない生徒も多い。	B	◎阿工生は、礼儀正しく挨拶も良くできている。健康管理等の自己管理もできている。将来への進路にもつながる。何事にも	担任・学年主任・保護者との連携を図り指導を強化する。遅刻の多い生徒に対しての生活習慣の改善など指導方法についても検討が必要で

				前向きにチャレンジしてほしい。	ある。	
	積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。(パワーアップ週間、学校安全の日)	すべての生徒が挨拶出来る。	月の初めにパワフル習慣をもうけ挨拶運動を行った。ほとんどの生徒がさわやかに挨拶ができていたが、音楽を聴きながら登校する生徒など気がつかない場合もある。安全面からも指導が必要である。	B	今後も継続していきたい。	
	頭髪・服装を正しくし爽やかに生活する。(全校集会における頭髪服装指導と継続的な指導)	頭髪服装検査を月1回を実施し、1週間以内に改善を要する生徒を30人以内にする。	1週間以内には改善はされているが、改善が必要な生徒は多い。全体指導において、身なりを正すことの大切さを理解させる指導を行った。2・3年生になると、担当教員と話し合い人間関係を構築し、努力しようとするようになっていく。	B	服装指導の日のみだけでなく、常に清潔感ある服装・頭髪ができるよう指導が必要。	
	遅刻防止に取り組み、時間を守る事の大切さを再確認し、基本的な生活習慣を身につけさせる。毎月の遅刻回数が5回以内となるよう、家庭との連携を図りながら学年全体として指導する。	1学年の年間遅刻回数を240回以内となるよう、各クラスで取り組む。遅刻の多い生徒に対しては、学年としても個別指導を行う。	遅刻回数は、二学期末時点で426回であった。家庭との連携を密にし、遅刻防止に努めた。	B	◎遅刻は、社会人になれば遅刻は許されるものではないことを理解させる。本人の意識改革が一番である。	遅刻回数は、2年生や3年生でも300回を超えており評価指標を変更するか、学校全体で取り組む必要がある。
②人権意識の高揚を図る。	「人権を確かめる日」, 「人権学習統一ホームルーム活動」の充実を図る。	人権感覚を深めるため、「あわ」人権学習ハンドブックを7回程度活用する。	「あわ」人権学習ハンドブックを参考にしながら資料等の作成を担当者に依頼し、人権学習統一ホームルーム活動は5回すべてに活用できた。	B	◎人権教育は、大切であるので、学校教育のあらゆる分野で取り組んでほしい。一人ひとりが尊重される社会実現、学校教育を推進してほしい。	「あわ」人権学習ハンドブックの活用についてはこれまで通りに行う。人権を確かめる日についても活用できるようにする。7回以上の活用を目標とする。
	学校の教育活動全体をとおして、人権尊重の精神を訴える。	生徒の人権学習アンケート等の評価を65%程度にする。	人権学習評価アンケート結果、評価は70%であった。	B	生徒の人権学習アンケート等の評価を70%程度にする。	
	公正な採用選考のあり方について理解させる。	校内で行う管理職面接で、「就職差別につながる」とされる14項目に抵触する質問を受けたとき、答えることが80%以上になるよう指導する。	本年度は差別選考に抵触する事項がなかったが、各ホームルーム・各コースで面接指導時に、細かな指導を行った。	B	校内で行う管理職面接で、「就職差別につながる」とされる14項目に抵触する質問を受けたとき、90%以上の生徒が答える指導を行う。	

	校内人権教育教職員研修の充実をはかる。	ホームルーム活動打合せ・教職員研修会に80%以上参加する。	教職員研修会3回、ホームルーム活動打合せ5回、実施した。校務による欠席以外、それぞれ8割以上の参加率があった。	B		ホームルーム活動打合せ・教職員研修会に80%以上参加する。
	学校行事として講演会の内容を充実させる。	人権問題に関する生徒講演会を実施する。	障がい者に対する差別について映画鑑賞、「今日もよか天気たい」を上映。理解しやすい内容で、生徒の感想にも自分の問題として考える事ができたという意見が多く見られた。	B		人権問題に関する講演会等が2回程度実施できるように計画する。
③環境教育を推進する。	校内美化を徹底する。	毎日の清掃の徹底 (清掃出席簿を作成する。) 月に1回の大掃除	出席率は96.3%であった。(回収率70.9%)	B	◎環境整備は大切である。 ◎省エネルギー・エコ活動への取り組みをさらに推進してほしい。	清掃出席簿を作成する必要がある。 さぼる生徒への対応をどうするか。 WAXがけの日程を検討して年2回の実施はしたい。 7月と2月がよい。
		教室のワックスがけを年間2回以上とする。 年に2回の全校除草(技師との連携)専門棟は各コースで実施する。	ほとんどのクラスが1回で2回のWAXがけができたのは、4クラス29%だった。			
	循環型社会形成の推進 1) 資源ゴミの分別を徹底する 2) 雑誌資源をリサイクルに出す	教室等のゴミ資源を6分類するための、資源箱の設置 学期に一度ゴミ袋内の分類程度を確認する。 ゴミ資源校内集積場の整備 月に一度のゴミ資源の集積状況調査 雑誌資源の集積場所の確保 年に1回の雑誌の古紙業者への収集依頼	ペットボトルは99%の分別率であった。 可燃ゴミの分別率は95%であった。 毎月調査した。 デジカメで写真をとる。 不燃や粗大がやや増加気味	◎工業高校としての特色ある取り組みを推進してほしい。	A	分別率100%への課題を分析する。 放置するとすぐ不燃や粗大が山のようにになるので定期的な検査が必要だ。 年に1回は古紙回収を要する。
3) 省エネルギーへの取り組み	電気使用量が前年比で減少させる。 水道使用量を前年比で減少させる。	前年に比べて、電気は2.4%減少した。 水道は22.6%減少 4年間連続で減少しておりその成果は自画自賛だがすばらしい。			どこまで電気や水道の使用量を減らせるか 適正使用量を検討する必要がある。	
	環境問題講演会の実施	3年サイクルで環境問題の重点課題が理解されるよう講演内容を検	実施できなかったが、防災講演会が実施できた。		講演等の開催により知識力の増進に努め、自身のスキ	環境と防災の両方の講演会を各1回実施する必要がある。

		討する。		C	ルアップにつなげてほしい。地域とタイアップした取り組みを進める必要上がる。	
	環境問題標語・ポスターの募集	夏期休業中の課題とする。	クラスにより集まりが悪いのと良いとの差が大きすぎた。	C		宿題の出し方を検討する。
	5R 運動を取り入れ、環境に対する生徒の意識を高める。recycle, repair, reuse, reduce, refuse	生徒と教員による評価の平均が達成度 3.5 以上にする	廃材の分別は概ね出来たが、修理により使用可能な機械や工具類は沢山あり、現状のままであった。	B		ものづくり旋盤部門の練習で出た作品の再利用を考える。
④ 安全教育を推進する。	火災時の初期消火と避難、人員確認	いつでも、どこでも安全に避難し、人員が確認できるよう体制を整備する	登校者全員の集合を確認できた。	A	◎災害時の危機管理は大変重要であるあらゆる場面を想定して地域と連携した防災活動に取り組んでほしい。	緊急避難訓練を実施していく。
	②地震時の避難と人員確認	避難訓練をより実践に即した方法に改善する 電話等連絡網が寸断されたときのための携帯メール網の確立	担当者との連携不十分で実施できなかった。 プライバシーとの関係でメール網の確立ができなかった。	C		一斉送信による生徒職員への情報伝達には必要である
	交通事故 0 をめざす。	原付の実技指導、講演会、自転車点検等を行う。	自転車点検、街頭指導を定期的に行った。 昨年より自転車事故は減少した。 原付免許取得者を対象に実技講習会を阿南自動車学校で行った。	B	◎自転車事故は加害者になることも起こりうる。ルールをきちんと教える必要がある。	ゆとりを持って登校するよう指導が必要である。
⑤ 健康教育を推進する。	円滑な教育活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。	保健室相談を毎日開室する。”教育相談だより”を年3回発行する。	教育相談室は毎日開室し、“教育相談だより”も学期ごとに1回発行した。	B	◎心のケアをしっかりと行って欲しい。	生徒に「ストレスチェック表」を配布し、ストレスマネジメントを行う。
	自らの健康管理ができるように、継続的な保健指導を行う。	繰り返し保健室を利用する生徒の数の減少を図る。	節度ある保健室の利用を試み、概ね達成できている。	B		引き続き行っていく。
	食に関する知識と食を選択する力を習得させる。	食育に関する講演会を実施する。	生徒を対象とした講演会を7月に実施した。	B	◎朝食づくりは良い試みである。次年度も続けてほしい。	食育コーナー（ボード）の掲示物を充実させ、生徒へのアピールを行う。
⑥ 読書活動を推進する。	図書館便りを定期的に発行し、生徒に新着図書を知らせる。 生徒からリクエストのあった図書の購入を積極的にすすめる。	毎月図書館便りを発行する。 図書委員会でアンケートをとる。	年3回発行した。 委員会の活動がほとんどなかった。	B	◎読書離れが叫ばれているが、知識技術を身につけるためにも読書は必要である。	もう少し発行回数を増やしたい。 年間活動計画の実行を委員に徹底させる。

	蔵書の充実と整備を進める。	新着図書等のディスプレイを工夫し、興味・関心を引くような書籍情報の発信を行う。	多くの寄贈図書や新着図書があり、生徒のリクエストにも応えることができた。	A		図書委員にも参加を促し、生徒の意見を多く取り入れるようにしたい。	
⑦ 特別支援教育を推進する	特別支援教育についての研修を充実させ、効果的な支援をめざす。	特別支援教育についての校内職員研修会を実施する。	4月に校内職員研修会を1回実施し、7月・12月にも相談員の方に来校していただいた。	B	◎一人ひとりのニーズに応えることのできる教育を推進してほしい。	ユニバーサルな教育を実践できるような職員研修を、2回以上は実施する。	
⑧ 特別活動の活性化を図る	競技力の向上を目ざす。	前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。	活発に活動している部活動は継続しており、他の部活動も刺激を受け活発に活動できた。	B	◎部活動への取り組みをさらに活性化してほしい。	実績だけにとらわれず生徒の活発な活動を促していきたい。	
	生徒が自主的に活動できる生徒会の育成	生徒会主催行事を年5回以上実施する	例年の活動に加え、新しく3学期の球技大会を生徒会主体で運営できた。	A	◎活躍している音楽部（三味線）への新入部員の勧誘に力を入れ存続を願う。文化部は指導者が必要であるので確保できるようにしていただきたい。	生徒会主体の行事運営ができるように指導していきたい。	
	体育祭、文化祭の充実	文化祭での来校者数が昨年（300人）を上回るよう実施する。体育祭で近隣の保育所、幼稚園等と交流を行う。	創立50周年記念行事もあり多くの入場者が来校していただいた。体育祭でも地域との交流ができた	B		本校の活動を周知していただけるように事前の広報活動を積極的に進めていく。	
⑨ ボランティア活動を推進する。	ボランティア活動を通して地域や世代を超えた交流を行う。	校外でのボランティアを年3回以上行う	例年と同じ活動であったが今年度で10年続けることができた。	B		定期的にボランティア活動ができる環境づくりを行う。	
実践力の育成	① ものづくりの技術・技能の向上を図る。	地域における技術技能に卓越した外部講師による技術講演会や技術講習会を開催する。	生徒アンケートによる評価を行う。	アルミ溶接作業の講習会、デジタルコンテンツによる阿南観光マップの制作を行った。	A	◎溶接のコンテストはできないのか。 ◎いろいろと取り組んでいることをもっとPRすべきである。	来年度も引き続き実施する。溶接コンテストは来年度愛媛建で四国大会が開催される。
		新技術に対応できる教員の資質向上を図る。	学校外の研修に積極的に参加する。	夏期研修へコースから3名参加した。	A		次年度も積極的に参加する。
		夢や未来に希望がもてるような内容を考える。	夢未来、学力向上に関連したテーマの導入する。	新しく、水生ワックスピーカーワークの実習を企画したが実施せず。 ペーパープレーン実習を実施した。	B	◎ものづくり技術が生かせる取り組みは生徒の自信につながるものである。	生徒の能力に合わせて来年度も実習内容を考えたい。
② ものづくり技術	旋盤作業、電気工事作業、測量競技など高校生ものづくりコンテストに出場	県におけるコンテストで上位の成績を収める。	旋盤作業においては、2名参加して、1名優勝した。四国大会では3位であった。	A	◎連続しての優秀賞は素晴らしい。	次年度も優勝をめざす。	

	を生かす。	する。					
		ものづくり技術や工業技術を生かしたロボット競技会など各種競技会に出場する。	各種競技会で上位の成績を収める。	電気工事競技部門では3位。マイコンカーラリーは、今年は完走できたが入賞はできなかった。	B	◎さらなる活躍を期待したい。	生徒は熱心に取り組んだが残念な結果に終わった。次年度は結果が出せるよう人選,指導を行いたい。
	③ 地域貢献を推進する。	ものづくり技術を生かし近隣の小学校等で出前授業を実施する。	出前授業は5校以上の実施を目指す。新しい学校との連携に取り組む。	小学校において,ロケット教室を開催した。今年度は1校だけとなった。	C	◎ロケット教室は好評であった。見学をしたかった。	来年度は,積極的に取り組む。
		ものづくりの楽しさと学校理解を図るため「ものづくり親子教室」等を開催する。	参加した小学生親子のアンケートによる評価を行う。	地域連携は出来なかった。	C	◎地域貢献は大変に良い取り組みである。マスコミを使ってもっとPRやアピールをすべきである。	積極的に実施するようにする。
		地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して地域貢献,学校間連携を図る取組を実施する。	該当者への満足度などのアンケート調査による評価を行う。	城西高校,阿南支援学校の依頼を受けて,防球ネット,雑巾かけを製作し,寄贈した。	B		工夫改善を重ね,新しいものづくりにチャレンジする。
	④ 安全作業教育を推進する。	各コースの実習等において,事故やけがが起こらない指導に努める。	実習前の健康や作業服等の確認,注意指導を徹底する。	実習服はほぼ100%着用できていたが,服装の確認や作業手順・ルールを徹底しており,事故やけがはなかった。	B	◎安全教育の徹底を図ってほしい。	旋盤や溶接では帽子の着用は徹底させる。
		実習場の機械や装置を整備し常に安全に作業できるように努める。	安全を確保するため実習機械の点検や整備を行い,不備な箇所の安全対策を講じる。	実習場の機械や装置を整備し常に安全に作業できるように努めた。	B		各コースの実習等において,事故やけがが起こらない指導に努める。
キャリア力の育成	① 阿工版デュアルシステムの充実を図る。	2学年全員参加の短期インターンシップを実施し,生徒の進路希望や学習内容に応じた企業先で体験できるようにする。	成果発表会を実施するとともに受け入れ先企業や参加生徒のアンケート等により評価を行う。	84%の生徒が希望の行き先であった。	A	◎授業で習ったことが生かせる事業所でインターンシップを実施するなどして成果が上がっていると感じる。	安全を確保するため実習機械の点検や整備を行い,不備な箇所については安全対策を講じる。
		3学年希望者が参加する長期インターンシップを実施し,しっかりとした職業意識を育てる。	受け入れ先企業や参加生徒のアンケート等により評価を行う。	事前指導,事後指導をを十分に行った。	B		進路意識を高めるため事前,事後指導を学年をとおして行いたい。
	② 望ましい職業観の	企業見学や現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させ	生徒アンケートによる評価を行う。	職業観・勤労観の育成につながった。	B	◎実体験することはすばらしいことである勤労観等の	来年度も引き続き実施する。

育成を図る。	卒業生や企業経験豊かな社会人講師の活用により、働くことへの意欲の向上や職業に対する意識の高揚を図る。	生徒アンケートによる評価を行う。	企業による講演、卒業生による講演を実施し、職業意識の向上につながった。	B	育成につながる。 ◎より多くの卒業生に学校にきてもらって仕事の状況等話をする機会を多く持ってほしい。	実社会で活躍する人の講演等積極的に行う。	
	③起業家精神を育成する。	模擬株式会社「鉄男」を設立し生産から管理・販売までの一貫した起業家教育を展開する。	ビジネスプランどおりに経営できかつ車椅子ボランティアができたか生徒による評価の達成度が3.5程度とする	プラン通りに実施でき、10年連続の車椅子寄贈にも貢献することができた。	B	◎キャリア教育には欠かせない取り組みである。	来年度も引き続き実施する。
	④資格取得を推進する。	工業の基礎技能である計算技術検定、情報技術検定3級について、一斉指導、個別指導、補習を実施し合格をめざす。	合格率をあげる。	計算技術検定においては、8割の合格率であったが、情報技術検定については3割程度であった。	B	◎多くの生徒が資格に挑戦するようになって欲しい。合格率のさらなるアップを期待する。	合格率の向上をめざす。
阿南寮の運営	①基本的生活習慣の確立を図る。	工業に関する専門の資格や検定の取得を推進するとともに、補習を計画的に実施し合格をめざす。	昨年度以上の合格者数、合格率を目指す。	第二、一種電気工事士試験、電験3種、工事担任者の補習の参加率は82%	B	◎第2種電気工事士のクラス全員の合格は素晴らしい。他の生徒に対してやればできるという自信につながる。	合格者 第二種電気工事士30名 第一種電気工事士4名 電験三種0名 工事担任者8名
		資格・検定の取得に向けた教材づくりを行う。	MM教材、CAI教材など自学自習ができる教材を教科・コースで作成する。	資格試験の受験時間を間違えて未受験となる生徒が発生した。資格取得に向けて補習など様々な取組を行う以前の問題である。受験者数も合格者数も減少の傾向にある。	B	◎資格は取得して損はない。前向きにチャレンジさせてほしい。	危険物に関しては、乙4合格者はその後も他の類の受験にチャレンジし、合格率も高い。乙4の合格者を増やす。
阿南寮の運営	②自主学習の習慣	寮の生活時間を守らせ、遅刻、欠席の防止を図る。名札掛の運用により生活状況を把握するとともに寮生自身に自己の生活管理をさせる。	出席状況を昨年度と比較し良好にする。遅刻5%以内にする。	舎監による、朝・晩の点呼、登校前の細やかな指導により男女共に遅刻率を5%以内に留めることができた。	B	◎遅刻が少なくなる取り組みが定着しつつあると感じる、さらに指導をお願いしたい。	男子寮生のほとんどが運動部で日々の帰寮時間が遅い為、自己の生活管理に苦勞している。これらの寮生に、如何にして自己管理をさせるかが次年度への課題である。
		進路実現に向けた自主学習習慣の確立を図るた	月に1回各校の行事予定を掲載した「生活学	月1回生徒の所属校を訪問し、学校行事や部活動の計画等を把握し、月毎に各校	B	◎保護者の元を離れての寮生活生徒	女子寮生においては自主学習の習慣はだ

<p>を定着させる。</p>	<p>め、自習室を活用させるとともに所属校との連携を図り、成績不振者の把握や個人面談を行なう。</p>	<p>習記録表」を作成し、各自に記録させ学習管理をさせる。各校とは学期に1回成績状況を把握するための訪問を行う。</p>	<p>の行事予定を掲載した「生活・学習記録表」を配布し自己管理をさせた。学期毎に出欠・成績状況を把握し「寮訪問」による担任からの情報交換を活かし寮生の指導を行った。</p>	<p>B</p> <p>は大変であると思うが、さらにその生徒を1日中指導する先生方苦労が多いと感じるが、生徒のためのさらなる取り組みをお願いしたい。</p>	<p>いぶ定着してきた。男子寮生の中には学習への動機付けが低く、日々の部活動だけで終わってしまう寮生もいる。これらの寮生への学習の動機付けの方策が課題である。</p>
<p>③美しい寮の環境をつくる。</p>	<p>定期的に清掃を実施するとともに、ゴミを阿南市の分類に沿って分別する。</p>	<p>各舎室の清掃状況を週に1回点検する。舎室以外の寮内清掃を週2回(月・木)に行い、大掃除を学期に1回実施する。ゴミの分別を点検する。</p>	<p>全舎室の絨毯の張り替え・食器のレンジ対応への買い換え、安全対策として寮の正門前の交差点にカーブミラーの設置する等、寮の環境整備に努めた結果、定期的な清掃等に対して寮生の積極的な参加が見られるようになった。</p>	<p>B</p>	<p>以前に比べると飛躍的に寮の清掃環境は良くなったが、一部の男子寮生による庭へのゴミのポイ捨てをなくす。</p>